

市民活動総合情報誌

eyes *あいづ*

2016.9
Vol.09

ご自由にお取りください

復興特集

熊本地震!
つながる支援のチカラ



熊本市市民活動支援センター・あいぽーと

contents もくじ

復興特集 熊本地震！つながる支援のチカラ

● 国内のボランティア団体をつなぎます

- 全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)の
松永さんにインタビュー 02

● 県外からの支援をチカラに変えて

- 被災地くまもとに根付いた支援活動をご紹介！ 03

● 震災後の市民活動の状況は

- 数字でみるあいぽーと 07

● クローズアップ 人 01

● アクティブNPO 08

● くまもと・わくわく基金レポート

- 平成27年度活動報告 10

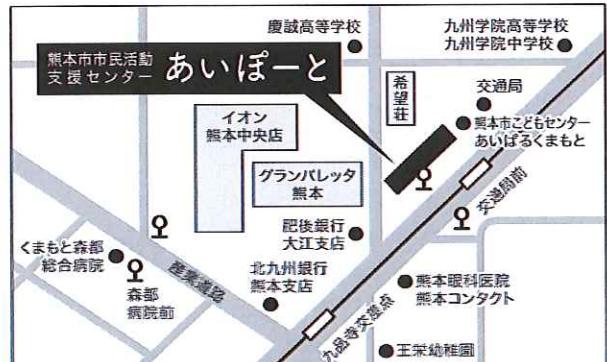
- 制度の概要と利用方法 13

- 平成28年度助成団体のご紹介 14

- ご協力のお礼と寄附者のご紹介 16

● あいづ川柳道場 17

●表紙について
火の君文化センター(熊本市南区)の避難所での布団干し活動の風景です。
写真提供:特定非営利活動法人 ソナエトコ



熊本市市民活動支援センター・あいぽーと

住所	◆ 熊本市中央区大江5丁目1-1 ウェルバルくまもと1階
電話	◆ 096-366-0168
Mail	◆ aiboot_kumamoto_city@joy.ocn.ne.jp
開館時間	◆ 午前8時30分～午後9時
休館日	◆ 毎月第2木曜および年末年始
アクセス	◆ 電車・バス「交通局前」(電車通り) バス「森都病院前」(産業道路)
HP	◆ http://www.kumamoto-aiboot.com/

クローズアップ 人

生かされている
命に感謝して

動物看護師
増子 元美

略歴

1998年「わんにゃんびっ相談室」(無料)を開設し、動物総合相談事業「Companion Animal PATY」を開始。月に1回、ワンニャン相談コーナーの介護担当としてボランティアを行っている。熊本の動物愛護を考える会(ACT)や、熊本市・熊本県それぞれの動物愛護推進協議会委員として行政と連携した活動を行う。



今回は動物看護師の増子元美さんに自身のボランティア活動について語ってもらいました。増子さんは現在、動物看護師の経験を活かして様々なボランティア活動に取り組んでいます。

— 動物看護師になろうと思つたきっかけは何ですか？

中学生の頃に友人とのトラブルがあり、人間が信じられずにいた時期がありました。その時自分を丸ごと受け入れ、癒してくれたのが飼っていた犬です。動物に助けられたことがきっかけで、動物と関わる仕事を興味を持ち、上京への憧れもあって専門学校に進むことにしました。今ではこの仕事が天職だと日々感じています。将来の職業について考える転機が早い時期に訪れたことにも感謝しています。学生時代に飼っていた猫が、よその家の方に置いてしまい、引き取つてもらった経験も、「動物自身にとつての幸せは何なのか」と考えるいいきっかけになりました。

— 動物愛護のボランティア活動を始めたきっかけは何ですか？

愛護センターや管理センターに連れてこ

られ、そこで「くなる動物たちを見て、何かしなくてはと思ったのがきっかけです。犬や猫を手放す前に相談できる場所があれば、解決できる問題や救える命もあるかもしれません」と思い、相談室を開設しました。ペットを手放すという選択に至った飼い主には自分の育て方が間違っていたと認識し、もう一回育て方をやり直してみるか、もう一度と犬猫を飼わないという約束をしてほしいです。動物たちと暮らすと決めた人が、ちゃんと一回立ち止まり、情報収集したり、考え方直す場所が必要だと思います。

— 現在、どのような活動をされているのですか？

「熊本の動物愛護を考える会」では、野良猫、近隣との犬猫トラブル、里親探し、負傷や虐待された犬猫の保護の事などの相談を電話やメールにて無料で行っています。「熊本市動物愛護センター」では月に1回「ワンニャン相談コーナー」を開設しています。獣医や動物看護師、しつけのインストラクターが犬猫のしつけ、健康管理、老犬の介護、ペットロスの相談を無料で行っています。動物との暮らしに悩んだときは、ぜひ相談に来てください。

熊本地震! つながる支援のチカラ



**全国災害ボランティア
支援団体ネットワーク(JVOAD)
松永 鎌矢**

略歴
大分県出身

2013年 4月 認定特定非営利活動法人レスキューストックヤード 入社
2014年 4月 宮城県宮城郡七ヶ浜町事務所に異動
2016年 4月 震災後JVOADの現地担当として現在も熊本地震の支援を行っている

国内のボランティア団体をつなぎます

全国災害ボランティア 支援団体ネットワーク (JVOAD) の 松永さんにインタビュー

全国から支援に駆け付けてくれたボランティア団体と被災地をつなぐ活動をしている「全国災害ボランティア支援団体ネットワーク (JVOAD)」。その現地担当として来熊し、現在も支援をおこなっている松永さんにお話を伺いました。

■ 熊本での活動は?

全国災害ボランティア支援団体ネットワーク (JVOAD) の現地担当として、災害支援活動に携わっています。熊本市内外の情報を収集

※みなしふ設…被災者が民間の賃貸住宅を仮の住まいとして入居した場合に、その住宅を国や自治体が提供する「仮設住宅」(応急仮設住宅)に準じるものと見なすこと。また、そうした賃貸住宅や関連する制度。

■ 活動のきっかけとなつたのは?
大学4年生の時に東日本大震災が起り、自分にもなにかできることはないかと思い、現在所属しているレスキュー・ストックヤードの災害ボランティア募集の記事を見て、宮城に出向いたのがきっかけでした。

約半年間、ボランティアとして宮城で活動していました。主な活動は仮設住宅でのコミュニティづくりと

して、バーベキュー、バザーの企画運営、他にも「みなしふ設」(※1)の方にまた地元に戻ってきてもらう為に、みなし仮設の方との交流会などを実施しました。実際に現地に入つて活動してみて、「日本は地震大国なので、再び大規模な震災が起きた時には、この東日本大震災で得た教訓を繋げていかなくては!」と感じました。災害支援の職業に携わりたいと強く思うようになり、お世話になつたレスキュー・ストックヤードの門を叩きました。

■ 今後の活動について

これからは仮設住宅に住まれる方の見守り体制や生きがいづくりが重要なになります。仮設住宅の運営は行政だけでの対応は難しく、より一層NPOの力が必要になってきます。東日本大震災で仮設住宅の支援に携わってきたときの経験を生かして、NPOが活動しやすい環境づくりや、NPOの持ち味を引出し、円滑に活動できる体制づくりに努めたいと思います。

■ 今後の活動について

して各団体に情報を発信し、各地域に支援が行き渡るように調整する役割です。地震当初は熊本市内への支援が多く、その他の自治体まで支援が回っていない現状がありました。県外からの支援団体や地元の団体に情報発信し協力を求め、県内外の団体のマッチングなども行うことで、徐々に熊本市外での支援も充実していきました。

県外からの支援をチカラに変えて

被災地くまもとに根付いた支援活動を紹介!

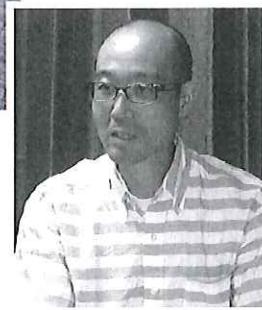
私達の生活に大きな変化をもたらした「熊本地震」。その発生の直後から現在まで、支援・復興の過程で活躍している熊本の団体と、その活動のきっかけとなった県外からの支援団体をご紹介します。

避難所応援 布団干し活動

実施している団体

特定非営利活動法人 ソナエトコ

理事長 水野 直樹さん



【団体概要】

特定非営利活動法人 ソナエトコ 設立日:平成26年1月16日

活動の目的:幅広い世代に対して、「自分の命を自分で守る力を身につける」というコンセプトのもと、特に防災・防犯・教育という視点で活動。その場その場で考えて動ける人を増やしていくよう、知識と実践力を養う事業を行い、逆境に強い人材を育成することで、安全安心な社会づくりに寄与することを目的とする。

■活動のきっかけとなつたのは?

普段の活動は団体名の通り、「備え」をテーマとして災害前の準備や啓発です。震災の後、団体としてどう動くか迷っていた時に、愛知から支援に来ていたレスキュー・スタッフの方とお話ししたのが転機になりました。支援には「自分たちの専門分野を活かした活動」と「避難している方々のニーズを形にしていく活動」があることを知り、我々にできるのは後者だと感じました。ニーズを把握するための手段として「足湯」や「茶話会」の運営方法を教わり、さっそく避難所にて実施。その茶話会の中

■どのような活動ですか?

晴れた日に避難所を訪問し、被災者の方の敷布団や掛布団を干すお手伝いをしています。布団を干している間も「今夜は気持ち良かろうね!」「汗をかいけど、水が美味しい!」などの声が聞こえてきました。

震災前には当たり前だった日常の喜びを少しでも感じられるように、と活動を続けています。

もとに、避難所での「布団干し」の活動がスタートしました。

レスキューストックヤード（愛知県）からのアドバイスで、避難所で暮らす皆さんへ向けて「足湯」や「茶話会」を実施。その中で聞こえた被災者の声をもとに、避難所での「布団干し」の活動がスタートしました。

■今後の活動について

避難所の方に日常生活の感覚を取り戻していただく取り組みを、提供という形ではなく、避難所の皆さん、避難所運営の職員さん、そして私たちのみんなで作っていきたいと思います。

支援してくれた県外の団体

認定特定非営利活動法人
レスキューストックヤード
椿 佳代さん



今回ご紹介した足湯も茶話会も、過去の災害支援の経験から生まれたニーズの汲み取り方法です。ソナエトコさんと一緒に活動に関わることができ、被災された方への想いが感じられ、毎回温かい気持ちになります。またご一緒できますように!

避難所での心の癒し 足湯＆マッサージ

実施している団体

特定非営利活動法人
小町ウイング

理事長 工藤 明美さん



【団体概要】

特定非営利活動法人小町ウイング 設立日:平成22年10月8日

活動の目的:地域高齢者に向けたコミュニティカフェ講座(健康教室・介護保険講座・シニアの能力発揮の機会など)を実施。地域での居場所づくり、高齢者の閉じこもり解消や、健康維持のための事業を継続する。

震災の被害を目の当たりにした恐怖から、活動にも迷いがあった小町ウイングの皆さん。過去に大地震を経験した、新潟県長岡市のチーム中越から受け継いだ

足湯とマッサージの活動で避難所の皆さんを元気にしています。

■ どのような活動ですか?

避難所となつてた熊本市男女共同参画センターはあもにいを拠点として、週に一度、避難者の方々へ向けて足湯とハンドマッサージを提供しました。新潟より災害支援に来ていたチーム中越の方々が始めた活動を、私達小町ウイングで受け継ぎました。

■ 拠点活動を続けることでの気づき

震災で自らが被災者となつたことは大変な恐怖でした。ひどく落ち込み、活動にも身が入らずにいた時に、あいばーとかの紹介で、「チーム中越の皆さんと一緒に活動をしてみないか」と声をかけていただいたのがきっかけでした。

一つの拠点避難所と定期的に関わり続けることで、避難所における課題が少しずつ見えてきます。毎回同じスタッフが、同じ避難者の方と顔を合わせることで、より詳しいお話を聞けますし、避難所が抱える課題を共有することができました。急を要する課題に対しても、避難所運営の行政や施

設管理者、NPO団体の会議で情報共有しながら一つ一つ改善されていました。

■ 今後の活動について

NPOの役割は、現場の課題を見つけ行政や地域につなげること、市民が安心して過ごせる地域社会をつくることだと考えています。これからも、避難者の方々の一日も早い自立に向けて皆で協力し取り組んでいきたいと思います。

支援してくれた県外の団体

チーム中越

佐竹 直子さん



ピンチはチャンスです! 長岡市は中越地震が弾みになって市民活動も地域も豊かになりました。足湯活動を小町ウイングさんに引き継いで頂いたので、未来の希望を描きながら、ひと足ひと歩みましょう!

県外からの支援をチカラに変えて

被災地くまもとに根付いた支援活動を紹介!

被災者的心に寄り添う傾聴活動

実施している団体

NPO法人

傾聴ネットキーステーション

理事長 菊池 美保子さん



【団体概要】

NPO法人傾聴ネットキーステーション 設立日:平成17年7月27日

活動の目的:高齢者・障がい者のため、地域で暮らす住民に対して傾聴についての講演会や傾聴ボランティアスタッフの養成支援事業を行う。ノーマライゼーションを基本理念に、共に支え合う住民自治によるまちづくりで福祉増進に寄与することを目的とする。

震災で生活が一変した被災者達の心に寄り添い、その不安や寂しさに耳と心を傾ける「傾聴」。東日本大震災での心のケアに力を注いできたプラン・インター・ナショナル・ジャパンが、熊本で傾聴を行う団体の活動をより深いものにしてくれました。

■どのような活動ですか?

避難所を訪問し、被災者の方々のお話をそのまま受け止めながら聞く、「傾聴」という活動を行っています。話を聞いてアドバイスや意見をするのではなく、不安や怒り、寂しさや苦しさなどの気持ちを言葉に出してもらうことで、少しでも気持ちが軽くなつて貰うのが目的です。

■活動に対してどのような支援がありましたか?

今まで地域の高齢者の方を中心には傾聴を行ってきましたが、被災者の方のお話を聞くには、よりそのことに特化した傾聴スキルが必要だと感じました。今回ご支援頂いたプラン・インターナショナル・ジャパンは、東日本大震災直後から「心のケア」支援活動を続けてきた団体です。その経験や、被災者の方の声を学ばせて頂くことで、私たちの傾聴スキルをより高めることができました。

■今後の活動について

活動をする中、「自宅が全壊でこれからが不安です」「夜が眠れない」「誰とも話すことがなく寂しい」などの不安や寂しさを訴える避難者の方がたくさんいらっしゃいました。支援活動は長期になると思いますが、いつでも被災者の皆さまの心に寄り添い、新たな生活への不安を希望に変えて頂けるように、活動を継続していきたいと思います。

支援してくれた県外の団体

公益財団法人

プラン・インターナショナル・ジャパン
後藤亮さん



東日本大震災でも、傾聴は互いに支え合い体験を乗り越えていくための大切な手法でした。熊本では傾聴ネットキーステーションの皆さまが、各地で傾聴の支援を実践してください大変強く思います。今後も連携を取りながら支援活動を続けていきたいと思います。

県外からの支援をチカラに変えて

被災地くまもとに根付いた支援活動をご紹介!

元気と美味しい、親子に届け!

食品パッケージ活動

実施している団体

NPO法人みるくらぶ

市原由美子さん



【団体概要】

NPO法人みるくらぶ 設立日:平成19年6月13日

活動の目的:子育て中の母親が地域の中で孤立するのを防ぎ、地域の子どもたちを健全に育成することを目的として、平成6年に任意団体として設立。地域の中で話し合いを重ね、癒しと自立の集いの場づくりや地域の子ども祭り等を実施。

地域のつながりを大切に、子ども達の健やかな成長を願い活動してきたみるくらぶ。震災後も続けていた心のケア活動に日本初のフードバンク、セカンドハーベスト・ジャパンの「食品パッケージ」という支援活動がプラスされました。

■どのような活動ですか?

食品メーカー・飲食店、農家、個人などから提供を受け、まだ充分食べられるにも関わらず廃棄される予定だった食品を引き取り、必要とされるところに届ける「食品パッケージ」という活動です。今回は、震災の被害を受けて困っている親子のもとに、心のケア活動とあわせてお届けしました。

■食品パッケージ活動との出会いは

フードバンクとして活動しているセカンドハーベスト・ジャパンの方が、食品提供が可能だと申し出てくれたことがきっかけです。私達も、避難所や地域拠点で心のケアの活動を行っていたので、あわせて美味しい食料もお届けできるようになりました。活動の中で多くの人の信頼関係が築け、相談を受けたりもしています。

■今後の活動について

活動で出会った方々にお話を聞く中で、様々な課題が見えてきました。生活再建の

過程では、まず最初に必要なのが住宅の確保、次いで安定して続けられる仕事が必要になると思います。また、日中も避難所にいる方たちの精神的なケアをすることも、欠かせないことだと思っています。どんな時でも地域でのコミュニケーションが大切になるので、人と人が繋がりを持つことが出来るようなツールを考え提供していくたいと思っています。

支援してくれた県外の団体

セカンドハーベスト・ジャパン

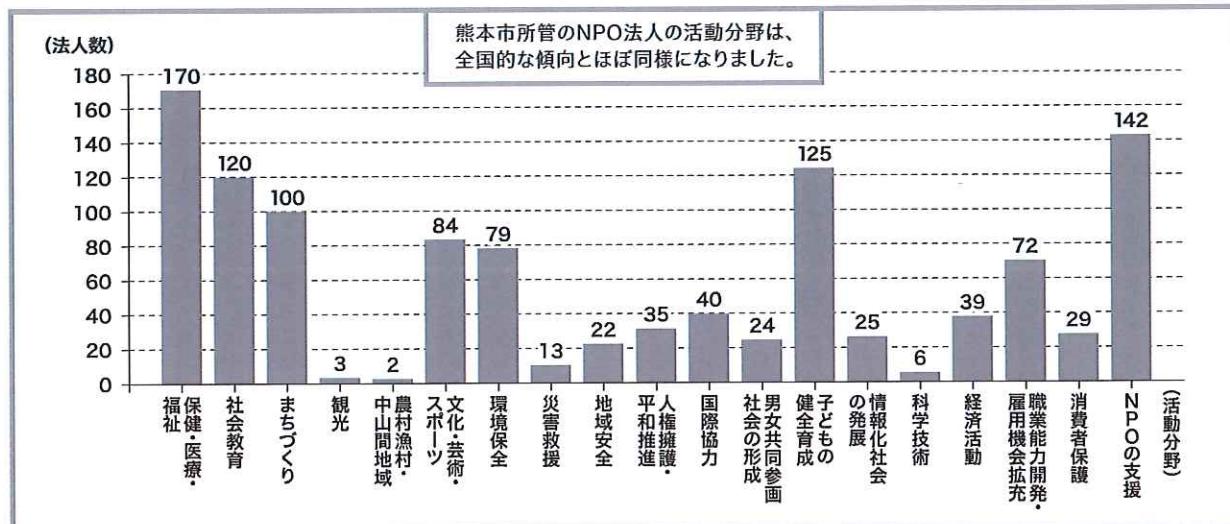
芝田雄司さん



生活再建への取り組みを始められている方への支援として、食品提供が可能であることを火の国会議で呼びかけました。みるくらぶの皆さんと一緒に「食料パッケージ」の活動ができたことに感謝しています。

数字で見る“あいぽーと”

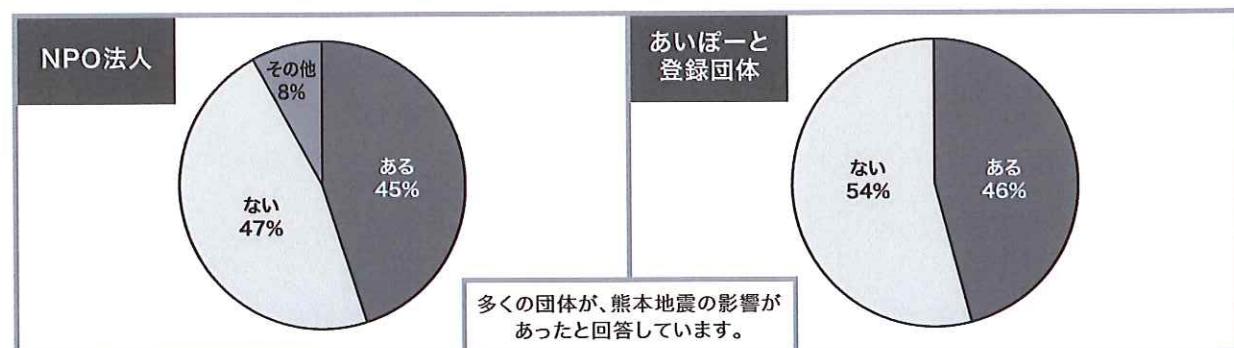
熊本市所管のNPO法人がどの分野で活動しているか調べてみました。(複数回答含む)



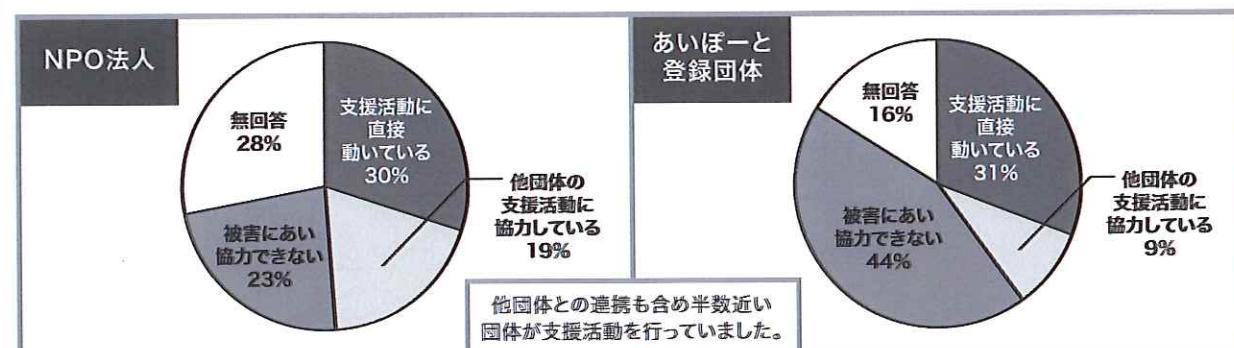
この度の「熊本地震」に伴い、熊本市所管のNPO法人とあいぽーと登録団体へ緊急のアンケート調査を実施しました。(平成28年5月 / 回答率: NPO法人 53% あいぽーと登録団体 33%)

※あいぽーと登録団体とは … あいぽーとに申請し登録した市民団体。あいぽーと内の施設の利用や、市民公益活動等の情報を得ることができます。

今回の熊本地震で今後の活動に影響することはありましたか？



地震発生後、地域等への支援活動に協力するようなことがありましたか？



アクティブNPO

今回紹介するアクティブなNPOは、特定非営利活動法人自立の店ひまわりパン工房・カフェです。施設で活動する知的障がいの方々を「チャレンジド」と呼ぶこの団体は、設立から今日まで多くの挑戦をしてきました。その軌跡とこれからを、理事長の牧野智子さんにインタビューしました。



活動のきっかけは

きっかけは今から18年前、カナダのトロントを拠点に世界で活躍している知的障がい者だけの人形劇団「フェイマス・ピープル・プレイヤーズ」を熊本に招いての公演でした。「知的障がい者であつてもこんなに素晴らしい、感動を呼ぶ舞台をつくることができるんだ」と知つて貰いたくて、私もボランティアとして公

チャレンジする人々の軌跡

演開催のお手伝いをしました。

その公演の益金をもとに、ボランティア有志を中心に、知的障がいのある人たち（チャレンジド）の自立と社会参加を支援することを目的に、当時から制作していた陶器、さり織などの作品の展示・販売ができる常設店を作ることになりました。県内の作業所や施設に声を掛け、多くの施設から作品を預かって委託販売も始めました。2000年9月のことです。

パン作りにもチャレンジ

その常設店がある施設の同フロアにパン屋さんができる予定だったのですが、諸事情によりオープンせず、パン作りの設備が使用されずに放置されています。そこのオーナーから、「施設の皆さんで使用されませんか?」と申し出を受けて決心し、まずはパン作りの指導者を探すことに。幸いにもボランティアの方

の中にパン作りが出来る方がいて、お店の近くに住んでいるチャレンジドの方を指導してもらいました。パン作りをから初めて、約1年ぐらいかけて商品として提供できるレベルに達したのでいよいよ販売へ。この日が「ひまわりパン工房」としてのスタートでした。

法人としての運営にチャレンジ

その後もどんどん活動を充実させ、2016年1月に就労継続支援B型施設「ひまわりパン工房」として新築移転しました。現在、チャレンジドが10名以上、ボランティアスタッフが5～6名、指導員4名、サービス管理責任者1名、所長1名で忙しく運営しています。

今後のチャレンジは？

最初は、個人レベルでのボランティア活動として始めましたが、チャレンジドの方が當時通つてくることになり、ボランティアだけではサポートが難しくなつてきました。熊本市とも相談して、「小規模作業所」の認可を取得して補助金を受け、1人の指導員を雇用して5～6人のチャレンジドの方と共にパン作りを始めました。その後も通所するチャレンジドが増え、養護学校・支援学級からの申し込みも増えてきて、一人では手が回らなくなりました。またまた熊本市に相談になれば、補助金も増える。そのためには、法人格が必要になる」とのこと、チャレンジドが直接関わっているパン工房とカフェ部門に特化して、NPO法人を設立しました。



特定非営利活動法人
自立の店ひまわりパン工房・カフェ
住所／熊本市中央区国府1丁目13-8
電話／096-211-5333
営業時間／10:00～17:00
休業日／土日祝

「自立の店ひまわり」の歩み

2000年9月	自立の店ひまわりオープン (作品の展示販売)
2001年1月	カフェひまわりオープン
2002年4月	チャレンジドと共にパン作り開始
2003年4月	パンの製造販売・チャレンジドの雇用開始
2006年4月	小規模作業所として認可
2009年12月	特定非営利活動法人 ひまわりパン工房・カフェ
2010年4月	法人設立により新体系へ移行 地域活動支援センター カフェ設立認可
2016年1月	中央区国府に移転オープン (自社ビルにて)

取材後記



出来上がったパンは、それ 자체がなんだか優しさに溢れている作品のようと思えました。その過程を間近で見ていて、皆さん本当に「チャレンジド」などを感じました。熊本地震を経て、災害ボランティアの活動に目が行きがちですが、チャレンジドの皆さん活動を見守ることや商品を購入することも立派なボランティア。「ボランティアするぞ！」と肩に力を入れずに、日常の中に溢れるボランティアを見つめたいです。

「チャレンジド」という呼称について

「チャレンジド」というのは、アメリカで提唱された言葉「the challenge」（挑戦という使命や課題、挑戦するチャンスや資格を与えられた人）を語源とし、現在ではスウェーデンでも使われています。障がいを持つゆえに体験する様々な事象をボディティブに活かしていくこうという思いが込められています。



熊本市市民公益活動支援基金

くまもと・わくわく基金

平成27年度 助成事業の成果レポート



平成27年度「くまもと・わくわく基金」では
以下の分野の事業に助成を行いました。

- ・分野指定助成事業 9事業
 - ・スタートアップ助成事業 3事業
 - ・団体応援助成事業 1事業
- 計13事業



Human Life Support of MUSIC BAND 紺ボランティア会

分野指定助成事業
保健、医療又は福祉の増進を図る活動

助成事業名 生バンド演奏による高齢者福祉施設に対する音楽出前ミニコンサート活動事業

助成金額 182,000円

高齢者福祉施設を利用する熊本市民の皆様方に、若かりし頃に聞いた昭和歌謡、季節の童謡、熊本の歌などを聞いてもらい、楽しかった思い出など昔を振り返って楽しんでいただきました。普段見ることのない音響機材、楽器、その設営などを直に見てもらい、コンサートに出かけた気分になって頂けたかと思います。また、当バンドのメンバーの、障がいと共に生きる姿勢を見て頂くことで、障がいについて理解をいただく事が出来ました。



NPO法人 熊本わくわく体操ボランティア協会

分野指定助成事業
保健、医療又は福祉の増進を図る活動

助成事業名 わくわく体操を実施して地域の健康づくり、活性化を図る事業

助成金額 104,000円

地域コミュニティーセンター・公民館に集まった参加の方と、わくわく体操を実施しました。椅子に座っての健康体操・わくわく体操で身体や心を動かし、健康づくりに役立てました。健康の話、心を動かす話、読み聞かせで集まった方々の情報交換の場となりました。また、ボランティアとして活動するリーダーの研修の場にもなり、多くの学びを得ることもできました。実施回数は36回で、参加者の数は延べ800名でした。今後はこの機会をきっかけに、出向いた地域で活動を継続していきたいと思っています。



NPO法人 成年後見安心サポートネット熊本

分野指定助成事業
保健、医療又は福祉の増進を図る活動

助成事業名 成年後見無料相談事業ならびに広報啓発事業

助成金額 88,000円

社会的弱者といわれる方々の権利や、判断能力が不十分となった高齢者や障がいの方々の生活を守り、人権を擁護することを目的に、成年後見無料相談会を、あいぼーにて計12回開催しました。地域包括支援センターや福祉施設へのチラシ配布や、新聞、情報誌を活用し、相談数は前年比横ばいではありますが、他団体による同様な相談会が増えていることを考慮すると、一定の効果はあったと考えています。今後も相談会開催等を通じて後見制度の周知、利用の拡大を図り、判断能力の不十分な高齢者等の皆さん、安心して生活できるように事業を推進していきたいと思います。



NPO法人 スポレク・エイト

分野指定助成事業
保健、医療又は福祉の増進を図る活動

助成事業名 口コトレ健康教室で健康で長生き

助成金額 138,000円

高齢者の方を対象に、地域コミュニティセンターで口コトレ教室を開催しました。「ささえりあ」の方の指導のもと、音楽に合わせたストレッチ、認知症予防にもなる指先体操運動、童謡や演歌に合わせたレクレーションなどで緊張をほぐしました。またステップ台を使って、転倒予防にもなる踏台昇降も行いました。普段使っていない筋肉を動かす運動なので、アンケートでは、「体が柔らかくなった」「速足ができるようになった」「来るのが楽しみ」等の感想を得ることができました。国が目指している医療費削減に微力ながら繋がったと確信しました。



NPO法人 でんでん虫の会

分野指定助成事業
保健、医療又は福祉の増進を図る活動

助成事業名 ひとり暮らしの「居場所づくり」事業

助成金額 159,000円

身寄りのないひとり暮らしや障がいの方、ひとり親、生活困窮者などの「居場所づくり」の事業として「おしゃべり会」を毎週1回あいぽーとにて実施しました。他にも食事を一緒に作り親睦を深める交流会や、講師の方をお呼びした学習会を市民対象に実施しました。これらの事業に取り組むことで、お互いが支え合う「居場所」が作られ、一人ひとりが生きがいを見出し、相談し合える関係が生まれ、孤独死の予防や安心な地域づくりに寄与しました。



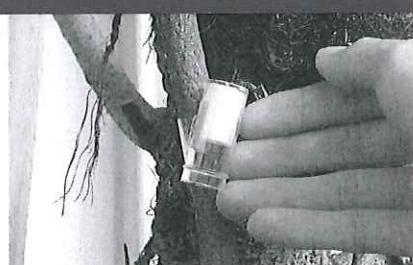
熊本の大気汚染を考える会

分野指定助成事業
環境の保全を図る活動

助成事業名 熊本の大気汚染測定運動を通して郷土の環境保全を図る活動

助成金額 150,000円

当事業では、大気汚染測定運動東京連絡会の協力を仰ぎながら、熊本で夏(6/4~6/5)・冬(12/3~12/4)の全国一斉大気汚染測定を実施しました。測定では県内400カ所に測定用力セルを配置し、データを分析・収集しました。その他、環境フェアへの参加や環境教育講演会の実践を通して、市民へ身近な環境問題を考える場の提供も行いました。これらの活動を通して、大気汚染公害をなくし、健康的なまちづくりや地域温暖化防止に関心を持つ市民の増加を図りました。今後も「郷土の環境保全を図る生活」の啓発活動に取り組んでいきたいと思います。



特定非営利活動法人 子ども夢工房

分野指定助成事業
生涯学習・子どもの健全育成を図る活動

助成事業名 日本の伝統文化にふれる「五色百人一首教室」

助成金額 148,000円

「百人一首」を五色に分けた「五色百人一首」を体験する五色百人一首教室を年6回開催。また、五色百人一首熊本市大会を通して、参加した子ども達に1,000年も続く日本の伝統文化に触れてもらいました。取り組みを新聞等にまとめ、熊本市民の皆様に紹介することで、日本の古き良き伝統文化を見直すことにつながりました。



ジェンヌKumamoto

分野指定助成事業
生涯学習・子どもの健全育成を図る活動

助成事業名 保活コンシェルジュくもと2015

助成金額 212,000円

今年度からスタートした子ども・子育て新制度による行政の新しい取り組み(ハート面の整備)をソフト面からサポートするために、認可・無認可にかかわらず、熊本市内のあらゆる形態の園・保育施設(事業所)の取材と調査を行い、「保活(保育所入所活動)」に必要なデータをとりまとめた冊子を作成しました。また「保活」に関する情報交換イベントを行い、冊子の配布と親たちのコミュニケーションの機会を提供することができました。



NPO法人 日本防災士会・熊本県支部 | 分野指定助成事業

まちづくりや地域安全の推進を図る活動

助成事業名 地域市民とNPOとのコラボDEまちづくり防災出前講座

助成金額 210,000円

いつ、どこで発生するか分からない自然災害に対する知識・認識を高めるために、災害図上ゲーム(DIG)、避難所運営ゲーム(HUG)、クロスロードゲームを積極的に実施し、町内会及び児童や生徒の皆さんに体験して頂きました。今回の事業では小学生(高学年)の児童や大学生、介護施設の方々に防災・減災に備える心構えが如何に大事であるかを指導し、多くの市民の方々に「災害発生時の緊急避難がとても大事だ」と認識してもらうことができました。



特定非営利活動法人 優里の会 | スタートアップ助成事業

助成事業名 里親制度の普及啓発と児童の福祉を考えるための講演会

助成金額 100,000円

行政、施設、里親などの関係者や、その他関心のある方々を対象に、加藤英明氏の「AID(※1)で生まれるということ」と題した講演会を開催しました。里親制度について社会一般の認知を高め、当法人の存在と活動内容をより多くの方に知っていただきました。「社会的養護を必要とする子ども達に何が必要か」を考える機会となったのではと思います。

※1 AID…Artificial Insemination with Donor's semen(非配偶者間人工授精)の略称。
主に無精子症の患者を対象に適用される。



ボランティアグループ「笑顔のたまで箱」 | スタートアップ助成事業

助成事業名 わくわく人形劇公演事業

助成金額 100,000円

子どもたちが人権をテーマとした人形劇を見ることで、心豊かに成長することを目的として、公演事業を行いました。泣いた赤鬼(原作:濱田広介)を基本に、青鬼がいなくなった後の物語を作り、やさしさと差別を楽しく分かりやすく子どもたちに伝えることができました。人形劇公演活動は、公民館や子育てネットワークなど、地域の子育て支援を実施している団体と連携し、市内を中心に13回実施しました。今後も公演が可能なので、平成28年度以降も熊本市内各地で活動を継続する予定です。



ダイエットサークル からだデザイン | スタートアップ助成事業

助成事業名 子育てママの元気を応援! 正しい健康維持(diet)の普及活動

助成金額 100,000円

育児中のお母さんを対象に、産後の体力アップや気持ちのリフレッシュなど、自身の健康を見直す時間を提供することができました。託児中の子ども達も異なる年齢間で交流することができ、いつもと違った刺激を受けることができたと思います。また、母親が正しいダイエットの知識を持つことで、若者の偏った食生活を防ぐことや、メタボリックシンドromeを予防することなど家族の健康管理や子育てにも有益な情報提供ができました。



ボランティアグループ「熊本のおもちゃ病院」 | 団体応援助成事業

助成事業名 「治療代」は子どもの笑顔の「おもちゃ病院」

助成金額 45,000円

壊れたおもちゃをボランティアで修理する「おもちゃ病院」を公民館、児童館、文化会館等で計37回開催しました。毎月の活動の積み重ねやメディアでの紹介もあって、「おもちゃ病院」の認知が進み、子ども達に物を大切にする精神や科学技術への関心が高められたと思います。修理件数も昨年度の313件に対し、今年度は457件と大幅に増えました。PRの効果もありメンバー数も9名から14名と増員することができ、高齢者の居場所つくりや生きがいの共有にも寄与することができました。



熊本市市民公益活動支援基金 くまもと・わくわく基金 制度のしくみと利用方法

市民公益活動支援基金(くまもと・わくわく基金)は、皆さんからいただいた寄附金を市民公益活動団体(ボランティア団体やNPO法人など)の活動支援金として交付する制度です。

熊本市をよりよくしたい想い

『想い』を寄附にかえて、市民公益活動を応援することができます。

- 一般寄附：窓口または納付書での寄附
- 冠設定寄附：100万円以上の寄付によって、寄附者の希望する名称による助成を行うもの
- 香典の寄附：香典の一部を寄附(香典返しに同封するお礼のハガキをお渡しいたします)
- 社会貢献型自動販売機の設置：設置した自動販売機の売り上げの一部を寄附するもの



熊本市をよりよくする活動

いただいた寄附を活動支援金として交付し、市民公益活動を推進します。

- スタートアップ助成：設立3年未満の活動団体が行う事業を助成する
- ステップアップ助成：市民公益活動を対象として助成する

※「市民公益活動」とは、以下の条件を満たしている活動のことです。

- ①市民が自らの自由意思に基づいて行う自主的・自発的な活動であること。
- ②いつでも誰でも自由に参加できる、開かれた活動であること。
- ③営利を目的としない活動であること。
- ④公益性のある活動であること。

助成について

市民公益活動への助成は、基金運営委員会で審査して決定します。

また、助成団体の運営に関する相談やホームページ等による紹介などのサポートも行います。

助成対象となる事業・団体

- 対象となる事業
「保健・医療・福祉」などの様々な分野で行われる市民公益活動
- 対象となる団体
熊本市内に事務所または活動拠点がある次の団体
NPO法人、ボランティア団体等の任意団体、自治会・校区自治協議会等の地域団体、
その他上記団体で構成された複合団体

助成申請について

毎年12月頃：翌年度事業の助成申請を受付、基金運営委員会によって審査

翌年 4月頃：助成交付・不交付の決定

随時受付中：基金団体登録(助成申請を希望する団体は、事前に基金団体登録を行う必要があります)

お問い合わせ及び申請先

熊本市市民活動支援センター・あいぼーと(ウェルバルくまもと1階) TEL:096-366-0168



熊本市市民公益活動支援基金 くまもと・わくわく基金

平成28年度 助成団体が決定しました!

平成28年度「くまもと・わくわく基金」には、
18事業の応募がありました。その中より、
・分野指定助成事業として……………9事業
・スタートアップ助成事業 ……………4事業
合計13事業(13団体)の助成が決定しました。
各助成事業の概要を紹介します。

分野指定助成事業／保健、医療又は福祉の増進を図る活動

NPO法人 熊本高齢社会活性化研究センター

助成事業名

高齢者のための介護講座

超高齢社会を迎えて、在宅医療の重要性が唱えられている現在、家庭における介護能力の向上が最も大切な基盤になります。家族・近親者の介護のための基本的な知識・能力・技能を身に付けるため、熊本市民を対象に介護人材養成の講座を開催します。地域包括ケアに必要な地域の社会資源や制度の利用の活用法への理解を深め、安心・安全な高齢期を迎えられる地域づくりに寄与します。

分野指定助成事業／保健、医療又は福祉の増進を図る活動

特定非営利活動法人 優里の会

助成事業名

里親制度の普及啓発と支援を強化するための事業

毎年、里親制度の普及啓発を目的として講演会を開催していますが、本年度は里親制度が充実していくためにはどのような支援が必要かを参加者と共に考えるための講演会・研修会を開催します。また、昨年度から行っている区民祭り・あいぱーと文化祭において、広く市民に里親制度を理解してもらえるような広報啓発活動を行います。

分野指定助成事業／保健、医療又は福祉の増進を図る活動

NPO法人 でんでん虫の会

助成事業名

ひとり暮らしの「居場所づくり」事業

ひとり暮らし世帯の方の中には生きがいを失い、ギャンブルやアルコールなどの依存症で苦しむ方が多くいます。孤立を防ぐために大切な趣味活動や、おしゃべり会、交流会を通じて、ひとり暮らしの人たちがお互いに支え合える居場所づくりの活動を行います。

分野指定助成事業／環境の保全を図る活動

熊本の大気汚染を考える会

助成事業名

熊本の大気汚染測定運動を通して郷土の環境保全を図る活動

夏・冬に年2回の大気汚染測定を実施しています。小・中学校、高校等の協力団体も加わり、多い時には熊本県内800ヵ所を超える地点での測定を実施。県・市の環境保全課や新聞社にも資料提供を行い、「環境フェア」での展示や小・中学校等において環境教育講演会も実施します。「環境にやさしい生活」を心がける市民や会員を増やし、健康で安全な熊本のまちづくりに貢献します。

分野指定助成事業／生涯学習・子どもの健全育成を図る活動

ボランティアグループ 「熊本のおもちゃ病院」

助成事業名

おもちゃドクター養成講座

日本おもちゃ病院協会の規定に基づき、おもちゃの修理で子育てを支援し、子どもや親たちに物を大切にする心や科学に対する関心を持ってもらうため活動する「おもちゃドクター」を養成する講座(2日間 計8時間・修了者には修了証を発行)を実施します。これにより、今までおもちゃ病院を開院できなかった地区での定期開院を可能とし、高齢者の生きがいづくり、居場所づくりにも寄与します。

分野指定助成事業／生涯学習・子どもの健全育成を図る活動

NPO法人 テアトロ・リリカ熊本

助成事業名

テアトロ・リリカ熊本2016 熊本復興創作舞台『ナポリの奇跡 明日に向けて Sempre Avanti』～青少年オペラ体験ワークショップ～

市民で創るオペラの舞台を毎年開催しています。また、専門家独自だけの輪に偏らず、オペラに親しむことの少ない若い世代にもオペラを体感してもらうワークショップの取り組みを参加費無料で実施しています。原語歌詞の読み方や音取り、物語の解釈、演技、役作り、舞台化粧の指導、時代考証に合った衣装や舞台美術等、数多くの事を学ぶ事業を実施します。

分野指定助成事業／生涯学習・子どもの健全育成を図る活動

特定非営利活動法人 くまもと学習支援ネットワーク

助成事業名

「手軽で栄養があり幸せになれる料理づくり」事業～親子料理教室～

普段忙しいひとり親家庭の親が子どもの為に料理ができるように、また子ども自身が安全に料理を作ることができるよう、そして親子と一緒に料理することができるよう、親子で参加する料理教室を開催いたします。家族構成によっては兄弟姉妹、祖父母や叔父叔母と一緒になどの参加も可能です(参加多数の場合は、ひとり親家庭を優先)。父親との参加も期待しています!

分野指定助成事業／生涯学習・子どもの健全育成を図る活動

特定非営利活動法人 子ども夢工房

助成事業名

親子でつくる「親守詩(おやもりうた)」と
日本の伝統文化にふれる「五色百人一首」の事業

親守詩(親子で作る短歌)を詠み、子から親へ、親から子へメッセージを送り合うことで、親子の絆を深める取り組みを実施します。また、日本の伝統文化である「百人一首」に親しむ取り組みを実施し、「五色百人一首大会」を開催しています。「親守詩熊本県大会」の開催や、「親守詩」「五色百人一首」を中心とした「伝統文化教室」も熊本市内の学童保育等の施設で行います。

分野指定助成事業／まちづくりや地域安全の推進を図る活動

特定非営利活動法人 熊本技術士の会

助成事業名

坪井川遊水地の減災対策に資する有効利活用事業

坪井川遊水地では、地域の住民が主体となって一部の広場や花壇などを整備していますが、広大な面積の為、低地部の水辺など、雑草の繁殖が恒常化しています。そこで、右岸上流の一部をシンボルとなる芝生緑地として整備し、市民に多目的拠点広場として開放し、有効利活用を発信するとともに、洪水に際しての減災効果も発揮できる事業を実施します。

スタートアップ事業

NPO法人 くまもとオカリナの会

助成事業名

オカリナ普及の為の体験・教育事業

オカリナは気軽に始められ、年齢を問わず人気のある楽器です。各種演奏活動とともに、演奏技術の習得や、仲間と合奏する楽しさや喜びを味わうことで、コミュニケーションの活性化および、生涯にわたって音楽を愛好する心を育むワークショップを企画・実施します。また全国のオカリナ愛好者を募り、演奏会「くまもとオカリナッセ」を実施し、オカリナの素晴らしさを広く発信します。

スタートアップ事業

NPO法人 Lokahi ke Aloha

助成事業名

小学校でレッツHULA!!
ハワイのクムフラが小学校で古典フラを指導！

ハワイの伝統文化の指導者、ハワイの幼児教育のスペシャリストを日本に招き、熊本市内の小学校と協力のもと、古典フラの授業を行います。児童には、実際に古典フラの指導を受けてもらい、本物に触れるということの大切さを体験します。小学校教諭には、言葉の通じない者同士がどのようなコミュニケーションをとり、指導していくのかを体験してもらいます。

スタートアップ事業

NPO法人 スポレク・エイト

助成事業名

ロコトレ健康体操

骨、関節、筋肉などが衰え、暮らしの中で介護が必要になってしまい危険性が高い状態、「ロコモシンドローム」を防止するため、福祉レクリエーション、指先体操、ストレッチなどの「ロコトレ健康体操」を実施。笑いを交えて、楽しく、喜んで頂けるような内容で開催します。「西部地域の交流を深め、健康で生きがいのあるまちづくり」を理念としています。

スタートアップ事業

NPO法人 熊本教育振興会

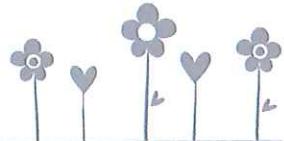
助成事業名

新しい風を呼ぶ教育講演会

今日、青少年をめぐる様々な問題が発生し深刻な社会的問題となっています。生涯にわたり相互に支え合う活動を重ねていける環境、人材を協力して作り上げるために、子どもたちを主な対象とした教育講演会を毎年開催しています。熊本の教育の誇りを未来ある青少年に再認識してもらう学びの機会になり、これから熊本市における更なる教育向上、発展に不可欠な人材育成の一助となるよう企画しました。



熊本市市民公益活動支援基金 くまもと・わくわく基金



「くまもと・わくわく基金」へのご協力に感謝し、心より御礼申し上げます。

熊本市民の皆さん、法人・団体等の皆さまからのご寄附は、平成28年7月10日現在、11,869,895円となっております。ご協力に厚く御礼申し上げます。

今号では、平成28年2月1日から平成28年7月10日の間にご寄附をいただきました皆さんへ感謝の意を込め、以下にご芳名を掲載させていただきます。皆さんのさらなるご支援とご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

【冠寄附】

● 東京エレクトロン九州株式会社 様 1,000,000円

※冠寄附とは一定金額以上の寄附を頂いたもので、当該寄附に基づく助成事業の名称(冠基金名称)を希望できます。

今回、東京エレクトロン九州様の冠基金名称は、「東京エレクトロン・マッチングギフト」となりました。

【一般寄附】

● 株式会社 熊本市リサイクル事業センター 様 7,542円

● 株式会社 パスト24 様 68,374円

● 山崎 直樹 様 30,000円

※ご要望により寄附額非公開

● OA通信サービス 株式会社 様

● 株式会社 お菓子の香梅 様

● 株式会社 宮食 様

● 熊本新明産業 株式会社 様

● 有限会社 石翔 様

● 有限会社 オー・エス収集センター 様

※その他、掲載を希望されなかった方 2名

寄附をお考えの方

「くまもと・わくわく基金」への寄附は、地域活動推進課窓口へ直接寄附金をお持ちいただく方法と、事前に必要事項を記入した「寄附申出書」を地域活動推進課へ送っていただき、その後返送された「納付書」をもって金融機関にて寄附金をご入金いただく方法があります。他にも熊本市役所庁舎1階に募金箱を設置しております。寄附額に制限はありませんが、2,000円以上ですと、地方公共団体に対する寄附として「ふるさと納税」扱いとなり、税制上の優遇措置を受けることができます。寄附のお申し込みやお問い合わせは、お気軽にあいぼーとまでご連絡ください。

あいぼーと TEL: 096-366-0168

ホームページ http://www.kumamoto-airport/kumamoto_wakuwaku/

あいづ川柳道場

今回のお題「復興」

前回に引き続きたくさんのお題が集まつたあいづ川柳道場。
今回は「復興」のお題の元、震災を経て感じた心の動きを川柳で表していただきました。

ボランティア やさしい心で聴く 傾聴

(合志 シーちゃん)

がんばるもん みんなの力 あわせるもん

(中央区 さくら)

足並みを揃えて進む 未来(あす)をみて

(東区 ゆうちゃん)

被災してはじめて気付く あたたかさ

(北区 給食大好き)

こんな時 私たちにも できること

(西区 竹ちゃん)

無理せずに 気持ち落着け まず一步

(西区 まりもえ)

熊本城 あかりをともし 復興へ

(中央区 ジャスティン)

ボランティア あなたの力は すばらしい

(中央区 ひろ子おばあちゃん)

復興へ つらい経験 踏み台に

(中央区 Yさん)

我が家見て 復興への誓い 改めて

(中央区 船長さん)

勇気わく 全国からの 支援の力

(東区 ヘルニア)

避難所で 真心の足湯に 元氣でる

(中央区 徳子)

次号のお題は、1月にあいぼーと窓口にて発表致します。詳しくはあいぼーとまで。



ボランティア

ボランティア活動を始めたい、ボランティアを募集したい等の様々な相談を受け付けています。また個人、団体でのボランティア登録を受け付けており、登録された方には定期的にボランティアに関する情報をお届けしております。ボランティア活動に興味のある方はぜひご来館ください。



NPO法人

NPO法人の設立・運営に関する相談や、各種提出書類の相談窓口を開設しています。特に、法人の設立及び定款変更の認証申請書類の作成に関しては、留意していただく事項が多いため、事前に申請書類の作成に関する相談や質問、申請に必要な書類の有無の確認をするなどの事前相談を実施しております。また法人の活動状況把握のための訪問や、要望に応じての出前相談会も行っています。



くまもと・わくわく基金／その他助成金

「くまもと・わくわく基金」や「その他助成金」に関する相談を受け付けています。「くまもと・わくわく基金」から助成を受けるには、あらかじめ基金団体登録をしていただく必要があり、申請書や報告書など書類の書き方の説明や、団体の運営相談などを受け付けています。また、「その他助成金」に関しては、ホームページに掲載し、窓口ではその他助成金に関する説明・紹介等も行っております。



Let's goあいぽーと！

あいぽーとのイベント情報をFM791のラジオで毎週月曜日朝8時40分より配信しています。「Let's goあいぽーと」を聞いてあいぽーと情報をゲットして遊びに来てください。

放送日／毎週月曜日 8:40～

※生放送のため、開始時間が前後する場合がございます

あいりぽーと

毎月、あいぽーとスタッフが、熊本市内で活動している団体を取材し、FM791のラジオ番組「校区のチカラ」の中で取材報告をしています。

放送日／毎月第2金曜日 14:00～

詳細については、お気軽に下記までお問い合わせください。

熊本市市民活動支援センター・あいぽーと

TEL:096-366-0168 FAX:096-366-8830
Mail:aiport_kumamoto_city@joy.ocn.ne.jp



ホームページ
コチラから